

アメリカ合衆国選手団キャンプの実施結果について

1 主旨

東京2020大会に向けたアメリカ合衆国選手団の大蔵運動場及び大蔵第二運動場でのキャンプ実施について、内容を取りまとめたので報告する。

2 概要

(1) オリンピックチーム

会場：大蔵運動公園の一部、大蔵運動場、大蔵第二運動場

日程：令和3年7月4日～8月16日

利用種目：ソフトボール、フェンシング、競泳、トライアスロン、マラソンスイミング、アーティスティックスイミング、水球、トランポリン、体操競技、新体操、バレーボール、ビーチバレーボール、サッカー、ラグビー、空手、テコンドー、柔道、陸上競技、近代五種、アーチェリー

選手利用：延べ3417人

(2) パラリンピックチーム

会場：大蔵運動場陸上競技場

日程：令和3年8月17日～8月28日

利用種目：陸上競技

選手利用：延べ203人

3 キャンプ内容等

別添、報告書のとおり

アメリカ合衆国選手団キャンプ実施結果報告書



令和 3 年 9 月
スポーツ推進部

はじめに

東京でのオリンピック・パラリンピック大会の開催が決定し、平成 27 年 4 月より世田谷区は海外選手のキャンプ誘致活動に取り組んだ。東京都及び日本オリンピック委員会の協力により、アメリカ合衆国オリンピック・パラリンピック委員会（以下「USOPC」という）が世田谷区を視察に訪れ、施設がまとまっていて選手を一括管理できる等の理由から、キャンプ会場として利用することを希望し、その年に覚書を締結。交渉を進め平成 29 年に契約を取り交わした。キャンプ実施決定をきっかけにアメリカのホストタウンとして登録され、USOPC やアメリカ大使館を通じてこれまで様々な交流を行ってきた。今夏、アメリカキャンプを実施したため、詳細について本書において報告する。

世田谷区スポーツ推進部

オリンピック・パラリンピック担当課

目 次		
キャンプ概要		2
キャンプ詳細	1．セキュリティ	3
	2．練習会場	4
	3．レストラン	7
	4．感染症対策	8
	5．ボランティア	9
	6．パラリンピックキャンプ	10
	7．キャンプ後の展示等について	11
交流事業	1．アメリカ選手団お出迎え式	12
	2．メダリスト交流	13
	3．パートナーシップ覚書署名式	13
参考資料	資料1 ボランティアから寄せられた感想	15
	資料2 USOPC と世田谷区のパートナーシップに関する覚書	18

キャンプ概要

1 オリンピックチーム

(1) 会場

大蔵運動公園(一部)、大蔵運動場、大蔵第二運動場

(2) 日程

準備

令和3年7月4日～7月14日

選手利用期間

令和3年7月15日～8月7日

撤去

令和3年8月8日～8月16日

(3) 利用競技種目等

競技・種目

ソフトボール、フェンシング、競泳、トライアスロン、マラソンスイミング、
アーティスティックスイミング、水球、トランポリン、体操競技、新体操、
バレーボール、ビーチバレーボール、サッカー、ラグビー、空手、
テコンドー、柔道、陸上競技、近代五種、アーチェリー

人数

延べ3417人

利用時間

午前8時から午後9時

2 パラリンピックチーム

(1) 会場

大蔵運動場陸上競技場

(2) 日程

準備

令和3年8月17日～8月20日

選手利用期間

令和3年8月21日～8月26日

撤去

令和3年8月27日～8月28日

(3) 利用競技種目等

競技・種目

パラ陸上チーム

人数

延べ203人

利用時間

午前9時から午前11時

8月21・26日のみ午後4時半から午後7時

キャンプ詳細

1. セキュリティ

(1) ID 管理

- ・大蔵運動公園内は、USOPC が専有するエリアと一般エリアを明確に分け、エリアの境界にアクセスポイントを設置し、ID の提示等で出入が管理された。
- ・選手はシャトルバスから降車し、一人ずつスタッフによる ID スキャンでチェックを行う。



ID スキャンを行うボランティア



キャンプ用 ID

(2) アクセスポイント (4 箇所)

- ・公園駐車場入口は選手輸送のシャトルバス、財団、USOPC の車両の出入口。シャトルバスは 1 時間毎に選手村と大蔵を出発。
- ・噴水前のゲートは人だけが通れる出入口。
- ・プール棟横のゲートはスタッフの通勤用出入口。
- ・屋外プール横のゲートは資材搬入等の大型車、警察、区の車両の出入口。
- ・アクセスポイント及び封鎖している出入口に防犯カメラを設置。
- ・警察は公園外周を 24 時間警備し、区職員も会場に常駐した。各アクセスポイントにおいてアメリカが契約した警備業者が警備を行った。



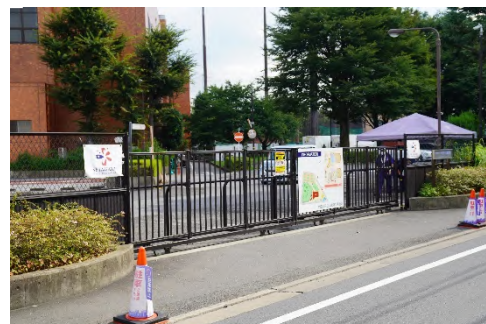
シャトルバスが出入りする公園駐車場入口



プール棟横の職員用ゲート



噴水前広場のゲート



屋外プール横のゲート

2. 練習会場

(1) 大蔵第二運動場体育館

- ・体育館半面にラバーマットを敷き、アメリカから持ち込んだウェイト器具等トレーニング機材を設置。
- ・もう半面はフェンシングの専用練習会場として使用。



トレーニングする女子サッカーチーム



フェンシング練習会場

(2) 大蔵第二運動場本館2階

- ・施設にあるトレーニングルームの機器を全て運び出し、メディカルルームとして使用。メディカルチームのスタッフが選手へのマッサージやメディカルケアを行う。
- ・2階入口のロビーはソファやクッションを置き、選手のリラクゼーションルームとして使用。



メディカルルーム



リラクゼーションルーム

(3) 野球場

- ・ソフトボールチーム、ラグビーチームの練習会場として使用した他、陸上長距離選手のランニングコースの一部としても使用。



ラグビー練習の様子

(4) 陸上競技場

- ・短距離、中距離、長距離、投てき、跳躍など、様々な種目の陸上選手が利用した。
- ・多目的室はリカバリー室になり、ロビーにはトレッドミルが設置された。
- ・陸上チームの利用期間外にはアーチェリーチームが使用。フィールド（芝）に的を設置し練習を行った。



陸上競技場の装飾



リカバリー室（多目的室）



アーチェリー練習の様子



ロビーに設置されたトレッドミル



陸上短距離練習の様子



陸上やり投げ練習の様子



陸上走り高跳び練習の様子



陸上走り幅跳び練習の様子

(5) 大蔵運動場体育館

- ・ラバーマットを半面に敷き、男子・女子バレーボールチームの専用練習会場として使用。
- ・バレーボールは大蔵を使用した競技団体の中で最後まで利用があった。



男子バレーボール練習の様子



女子バレーボール練習の様子

(6) 大蔵運動場内武道場

- ・大蔵運動場には3部屋の武道場(フローリング2室、畳1室)があり、柔道、テコンドー、空手の選手が利用。
- ・空手はオンラインで指導者と選手がやり取りをして練習を行っていた。
- ・フローリングには空手マットを敷き詰めて使用。



テコンドー練習の様子



柔道練習の様子

(7) プール

- ・競泳、水球、アーティスティックスイミング、トライアスロンの練習会場。また、女子サッカーチーム等がリカバリーとして使用した。
- ・大蔵のプールに冷却機能がなく、夏場は水温が高くなってしまったため、USOPC が冷却器を設置した。



プールの水温を下げる冷却器



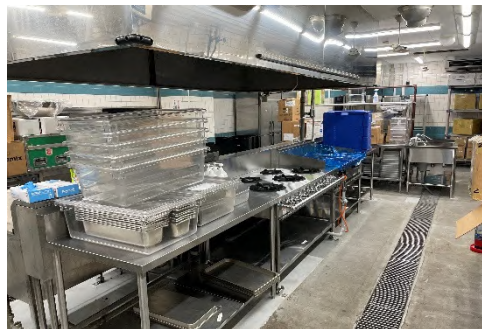
アーティスティックスイミングの練習

3. レストラン

- ・USOPC が 6 月に大蔵第二運動場のレストラン厨房を改修し、新しい厨房機器を入れた。キャンプ終了後は区へ引き渡され総額約 530 万円相当分寄贈された。
- ・テーブル、椅子は USOPC が全て持ち込み間隔をあけたレイアウトを行った。
- ・大蔵第二運動場以外に、プール棟レストランも食事提供を行った。調理は大蔵第二運動場レストランの厨房で行い、プール棟は食事を温めるのみ。
- ・レストランは昼、夜の提供があり、希望すればテイクアウトも可能。1 日 100 ~ 400 食程度。選手村の食事とはらず、キャンプ会場に食事だけとりに来る選手も多くいた。
- ・調理は USOPC 料理スタッフがを行い、メニューは日替わり。希望する料理をスタッフがサーブする。
- ・脂質の多い揚げ物の提供はなく、選手が料理をとりすぎないように盆は使用せず皿のみで料理をとる。
- ・食事をし終わったら、スタッフが使用したテーブルの消毒を行う。
- ・キャンプ終了後、USOPC からの依頼で余った食材や飲み物、お菓子を区内児童養護施設 2 か所、児童相談所一時保護施設、社会福祉協議会へ寄付した。



レストラン内の様子



機器を入れ替えた厨房



料理提供の様子



料理



児童相談所を通じて一時保護施設へ食材寄付



児童養護施設の園長と栄養士

4. 感染症対策

(1) 検査

- ・選手や USOPC と一定の接触が見込まれるスタッフは東京都が準備したキットにてスクリーニング検査を実施した。毎日午後2時に検体を業者が回収し、翌日の午前中に検査結果がメールで送られる。アメリカの選手・スタッフは日本人スタッフとは別契約で組織委員会が用意したキットで毎日検査を行った。
- ・日本人スタッフ、大蔵運動場の利用者に陽性者は発生しなかった。

(2) 清掃

- ・選手利用開始前の時期に USOPC の清掃担当者より大蔵の清掃スタッフへオリエンテーションを行い、清掃方法、道具の使用について説明があった。
- ・キャンプ会場内の消毒はすべて USOPC が用意した消毒液（Pure Clean）を使用。人体に入っても害の少ない製品。
- ・清掃用具は USOPC から貸与され、タンクに消毒液を入れてスプレー式に噴射する道具を使用した。
- ・共用部分の定期的な消毒、競技団体の練習毎後の清掃・消毒を行った。
- ・各施設出入口にプッシュ式ではなくセンサーで反応し消毒液が出る機器を設置。



清掃オリエンテーション



各出入口に設置した消毒液



競技団体入れ替え時の一斉清掃



USOPC に貸与された清掃道具

(3) その他感染症対策

- ・アメリカ選手・スタッフは行動制限が課せられ滞在は用務先（宿泊場所、練習会場、大会会場等）に限定されているほか、公共交通機関の使用が禁止されているため、専用バス等でキャンプ会場に来た。
- ・マスク着用の徹底、ソーシャルディスタンスを保つよう床や壁に表示物設置。
- ・健康観察表への記録、COCOA の使用、コミュニケーションアプリや無線でのやり取りを中心に行いなるべく接触を避けることなどにより、感染症対策を行った。

5 . ボランティア

- ・令和2年3月にキャンプボランティア52名を採用したが、USOPCより選手との接触を最小限にしたい主旨からキャンプボランティアの人数を見直すよう要請があった。当初は18歳以上、日本語と英語が話せ、10日以上従事できることが条件であったが、20日以上かつ8時間以上従事でき、公共交通機関を使用しないことを新たな活動条件とし、12名が従事することに決定した。
- ・ボランティアには、USAのキャップやTシャツなどが配られた。
- ・活動期間は7月10日～8月9日、8月21日～27日。活動内容は、キャンプ会場の準備片付け、ドリンクや氷の補充、練習会場の準備、選手のIDスキャン、レストランスタッフの補助等。
- ・アメリカのスタッフは行動制限が課せられ買い物ができないため、ボランティアへお菓子やお土産の購入を依頼。ボランティアスタッフはお土産選びを楽しんで引き受けていた。
- ・ボランティアとUSOPCの友好関係はキャンプ期間にとっても深まり、ボランティアから寄書きした色紙やプレゼントがUSOPCへ贈られた。
- ・ボランティアから寄せられた感想は15～17ページ、資料1に掲載。



トレーニング機器組み立て



装飾作業



練習道具の準備



カートでの運搬作業



アクセスポイントで選手を待つ
USOPC とボランティア



プレゼントを渡すボランティア

6 . パラリンピックキャンプ

- ・ 8月21日から26日まで陸上競技場をパラリンピックの陸上チームが使用。
- ・ 陸上競技場トラックでは車いすレーサー、義足、ブラインドなど様々なカテゴリーの選手、フィールドでは走り高跳、走り幅跳び、投てき種目の選手が練習を行っていた。
- ・ 投てきは体を固定するため地面に杭を打ち、車いすを固定して砲丸や槍を投げる。
- ・ 多目的室の半面をトレーニングルームにし、もう半面はマッサージ台を設置しコンディショニングを行う部屋としていた。



車いすを固定し投てき練習をする選手



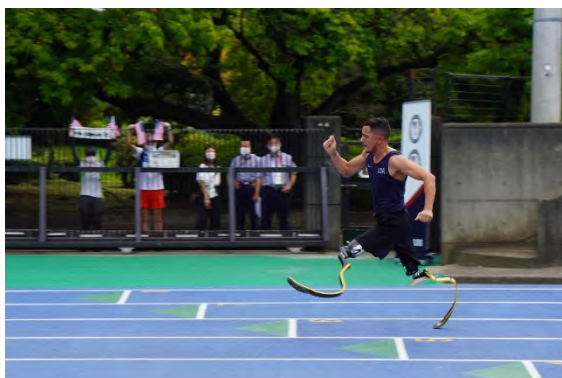
ブラインドマラソンの練習



多目的室に設置されたトレーニング室



走り幅跳びの練習



短距離走の練習と応援する区民



車いすレーサーの練習

7. キャンプ後の展示等について

- ・大蔵運動施設にオリンピック競技種目の紹介パネル、メダルを獲得したアメリカ選手、日本人選手をパネルで紹介した。
- ・大蔵運動施設の各ロビーにモニターを設置し、キャンプ中の選手練習風景の写真をスライドで流した。
- ・USOPC がキャンプ会場を撮影し解説している動画を提供予定。編集しバーチャル見学ツアーとして秋以降に公開を予定している。



モニターに流した練習風景の写真



メダルを獲得した競技ごとの選手一覧



大蔵第二運動場入口の展示



プール棟ロビーに飾られた選手サイン

交流事業

1. アメリカ選手団お出迎え式

(1) 概要

当初、子供たちによる歓迎セレモニーを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、区長や議長など代表者を限定した形で実施し、アメリカ選手団を歓迎する装飾やビデオメッセージを作成しキャンプ会場内でお披露目をした。横断幕はキャンプ終了後アメリカへ持ち帰り、オリンピックギャラリーでの展示を検討するとのこと。また、後日船橋希望中学校の生徒達が作成した世田谷観光ガイドを USOPC へ贈りアメリカへ持ち帰ってもらった。

(2) 日時

7月11日(日) 午前10時～11時

(3) 内容

- ・ 区長、議長、USOPC 挨拶
- ・ 選手へ向けた子供たちの応援メッセージ動画をモニターで流し鑑賞
小学校3校(上北沢・京西・八幡) 中学校1校(松沢)
- ・ レストラン内に装飾された小中学生の寄せ書きの前で記念撮影
小学校6校(上北沢、池ノ上、八幡、九品仏、烏山、給田)
中学校1校(玉川)、インターナショナルスクール1校(セントメリーズ)

(4) 出席者

Dean Nakamura スポーツ・パフォーマンス バイス・プレジデント
Rachel Isaacs イベント・戦略計画 バイス・プレジデント
Rebecca Crawford スポーツ・パフォーマンス ディレクター
Dana Schoenwetter スポーツ・パフォーマンス 副ディレクター
保坂区長、宮崎副区長、下山議長、石崎スポーツ振興財団理事長、
内田スポーツ推進部長、小澤交流推進担当部長



子どもたちの応援動画を鑑賞する出席者



キャンプ期間中に横断幕で記念撮影する選手



ホストタウンロゴマークのモザイクアート前で記念撮影



船橋希望中学校の作成した観光ガイドをUSOPCへ贈呈

2. メダリスト交流

(1) 概要

世田谷区医療的ケア相談支援センター（Hi・na・ta）オープニングイベントに、トライアスロン混合リレーで銀メダルを獲得したモーガン・ピアソン選手が参加した。全国で多くの交流事業が中止となっている中、世田谷区内で唯一実施できた対面式の交流事業となった。

(2) 日時

8月3日（火）午前11時～12時30分

(3) 会場

国立成育医療研究センター敷地内

大蔵二丁目複合型子ども支援センター（Hi・na・ta）

(4) 内容

- ・米国トライアスロン競技銀メダリストのモーガン・ピアソン選手が、医療的ケア児とその家族と記念撮影などの交流を行った。
- ・9組の家族と入れ替えで交流をし、モーガン選手との会話や銀メダルの披露、子どもへサインやプレゼントを贈った。
- ・モーガン選手のレースを見ていた家族からは、頑張る姿に感動してエネルギーをもらえた等の会話のやり取りがあった。



モーガン選手との記念撮影



パーテーション越しに交流する家族



銀メダルに触れる参加者



区長からモーガン選手へ花束贈呈

3. パートナーシップ覚書署名式

(1) 概要

アメリカ選手団団長と区長によるオリンピックチームキャンプ終了の挨拶、世田谷区とUSOPCがパートナーシップを継続し今後も交流していくことを記した覚書の署名を取り交した。

(2) 日時

8月24日（火）午前10時30分～11時

(3) 内容

- ・ 区長、USOPC 挨拶
- ・ キャンプ記録動画鑑賞
- ・ 覚書の署名取り交し

(4) 出席者

Rick Adams アメリカ選手団団長

Dean Nakamura スポーツ・パフォーマンス バイス・プレジデント

保坂区長、宮崎副区長、石崎スポーツ振興財団理事長、内田スポーツ推進部長

(5) 覚書

18 ページ、資料 2 参照。



挨拶するリック団長



記録動画を鑑賞する出席者



署名をしたリック団長と保坂区長



集合写真

ボランティアから寄せられた感想

想像以上に多くの人と繋がりを持って、キャンプの運営のため、選手のハイパフォーマンスのために少しでも手助けできる事が嬉しかったですし、毎日が楽しかったです。オリンピックの運営には様々な人が関わっていて、それぞれのストーリーがあって、そんな方々のすぐ傍で活動し、お話を聞いたりできたことは貴重な経験になりました。

USOPC と世田谷区のスタッフの皆さんには本当によくしていただき、感謝しかありません。一生忘れることのない経験だったと思います。ありがとうございました！

楽しかったの一言につきます。海外に行くことのできない状況下、大蔵公園はまるでアメリカにいるような錯覚を起こしてしまうような雰囲気でした。活動は当初予定されていたものとは違ったかもしれませんが、USOPC のお手伝いができ、少しでもアスリートの皆さんのお役に立てたのならうれしいです。ボランティアの数も少なかったですが、それだけに仲良くなることもできました。

アメリカ側のスタッフも、世田谷区のスタッフも皆さんとても気さくで活動しやすかったです。素敵な、思い出に残る夏となりました。このような機会を与えてくださったことに心から感謝いたします。

コロナ禍での開催となり、さまざまな制約のある中でしたが、活動で出会ったみなさんのおかげで貴重な体験となりました。

アメリカ選手団のみなさんは大会で求められるルール以上の制約を課され、それを厳守して活動をされていました。そんな中、少しでも日本の思い出を残してもらえたらとボランティア活動のかたわら、スーパーの買い出しやお土産のおつかいをする機会を得ました。ご本人が商品を手にとってみる事ができない分、チャットアプリで説明をしたり、ご希望を伺っている内に、本国におられるご家族の方とも話が弾むなど、得難い体験となりました。この状況でなければ、ここまで深く交流することはできなかつたと思いますし、ただただ楽しかったです。

一方で、ボランティア活動では意見を求められる場面で「あらゆる意見が正解だから何でも聞いてね」と言われても思うように伝えられなかったり、サプライズ好きなスタッフがすごくアメリカ的なスイーツを作ってくれたのに気持ちを言葉で表現できなかつたりと、英語力で悔しい思いをすることが多々ありました。

この経験を糧により学習にも励み、活動の幅を広げていきたいと思ひます。

貴重な機会をありがとうございました。

コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催となり、参加前は正直不安もありました。しかし始めてみると、活動日毎の検査等感染症対策も万全で安心して参加する事が出来ました。

これまでの大会に比べ色々な制約がある中で、普段はなかなか知り合う機会のない様々なバックグラウンドを持った人々と共に、大会の成功や選手の最高のパフォーマンスのために活動出来た事は一生の宝物です。このような機会を頂きまして、本当にありがとうございました。

自国の選手を第一に活動する USOPC のスタッフ、サポート精神に溢れたボランティアメンバー、数年かけて準備し現場を統括していただいた区職員の皆様、他にも多種多様なバックグラウンドをもった皆様と出会い繋がりができたことは本当に素晴らしく価値あるものだったと感じています。

普段から目の前で日々練習していた選手達がテレビの向こうで金メダルを獲得するというダイナミックな経験は、オリンピックはアスリートのためのもので、US の選手に限らず全ての選手達のためにも、どんな困難があっても何とかして開催すべきイベントだなと強く感じる事ができました。

ボランティア活動やボランティアメンバー・スタッフの皆様とのコミュニケーションを通して、世田谷区について新しく知ることもしばしばありました。

ここで得た知識・経験・つながりをもとに、今後世田谷区に何かしら貢献できる新しい活動をしていくことができると考えています。

最後に何もかもが貴重で素晴らしい体験ができました。今回できた繋がりを大事にしていきたいです。

全ての職員の皆様の名前は把握できていないのですが、桑門さん・森島さん・荒木さん・野本さん・瀬口さんをはじめとした区の職員の皆様、貴重な機会を頂きありがとうございました。

今回は本当に一生に一度の経験をさせていただき世田谷区職員の皆さまには大変感謝しております。ありがとうございました。

スター選手集団のアメリカチームの活躍を裏側で支える USOPC の皆さんの様子や業務を知ることができたことは、私にとってとても貴重な体験でした。また微力ながらそのサポートに関わることができて良かったです。少しの時間でも練習風景が見られたのも本当に感動でした！

最後に、世田谷に住みながら職場が横浜である関係から、10年前に引っ越してきて以来、世田谷をよく知る機会がなく今に至っていた私にとって、このボランティア経験を通じて知り合った同じ地域の素敵な方々と交流できたことも貴重でした。皆さんの地元愛と知見から世田谷の魅力を色々と知ることもできました。この機会を通じて、アメリカにより親しみを感じるようになったと同時に、地元世田谷にもとても愛着を持つ良い経験になりました。重ねて、良い経験をさせていただき皆さまには本当に感謝しております。ありがとうございました。

オリンピックが1年延期となり、ボランティアの人数縮小・活動内容の変更など当初予想していた活動とはだいぶ違う結果となりましたが、今はとにかく「やってよかった！楽しかった！」というのが率直な感想です。12人という規模も結果的にはちょうどよく、うまく連携が取れていたと思います。アメリカキャンプはとても居心地の良い場所でした。アスリートの評判もよく、最終的にアメリカが獲得したメダル数のうち6割が大蔵で活動した選手によるものだと聞いた時はとても嬉しかったです。元々予定されていた内容だったら...と思ったこともありましたが、自分の目標だった「英語をたくさん使うこと」も達成でき、今は本当にやらせていただいたことに感謝の一言です。また区内でこのような機会がありましたらぜひ挑戦したいと思っています。区の方々には色々とお世話になりました。ありがとうございました。

まず今回キャンプボランティアに選出していただき有難うございました。

非日常の体験を通して沢山の新しい日本人とアメリカ人の友人ができて一生の思い出を手に入れました！

コロナ禍で私自身の気持ちが沈みかけていましたが、キャンプボランティア活動で元気をもらい、日常生活においても頑張ろうという気持ちにさせてもらいました。

またこのような活動があれば積極的に参加したいです。

大変素晴らしいボランティア活動に参加をすることが出来ました。USOP は 2 年（夏、冬季）ごとにオリンピック会場国に High Performance Center を構築するためプロジェクトとしてプロフェッショナルな体制を作り上げてます。すべての米国の選手が大蔵にて練習を行ったわけではありませんが金メダル 39 個、銀 41 個、銅 33 個の大挙な結果を残せたのは世田谷区と共同で行ったキャンプ場作りが成功だったと思っております。また、微力ながらお手伝いをする事が出来人生最高の夏を過ごすことが出来ました。期間中の世田谷区ご担当者の皆様の努力には頭が下がります。貴重な体験をさせて頂きましたことに感謝を申し上げます。

本当に楽しく、充実した 1 ヶ月半でした。様々な変化や調整が必要な中、世田谷区の方がスムーズな対応をして下さったことで何不自由なくボランティアに勤しむことができたと考えます。新型コロナウイルスの影響でボランティアの人数も大幅に少なくなってしまいましたが、私は返ってそれが良かったと思います。本当に素敵で、ユニークで、素晴らしい 12 人のボランティアメンバー皆さんの名前を覚え、たくさんお話することができ、お互いのことを知ることができました。もし 50 人いたら、それはそれで勿論楽しかったと思いますが、こんなに USOPC の方を含め親しくなれなかったのではないかと思います。今回ご縁があった皆様は本当に素敵な方ばかりでした。私は英語力も自信がなく、年齢や性別もバラバラな環境で上手くやっていたか不安な面もありました。しかし、温かい Team USA の皆さんだからこそ、自分らしく楽しむことができたと考えます。また皆様にお会いしたいです。ロサンゼルス大会でもボランティアをしたいと思っております！ご迷惑をおかけした点多々あると思いますが、このような素晴らしい環境を整えて下さった世田谷区の皆様に重ねて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

トレーニングマシンの組み立てや陸上競技場内の設備の設置など初めてのことで、不安もありましたが、選手が安全に普通に利用してくれたことで安心し、微力ながらもお役に立てていたのかなと思うとうれしく感じます。国の代表選手の練習風景を目の前で観れたこと、そしてその素晴らしい活躍に毎回感動していました。このボランティア活動に参加できたことは貴重な経験となりました。職員の方や組織委員会の方はじめ、お世話になった皆様、ありがとうございました。

USOPC と世田谷区のパートナーシップに関する覚書 (本文)


**Memorandum of Understanding on the Partnership
between USOPC and Setagaya City**

The following agreement was reached on August 24th, 2021 between the United States Olympic & Paralympic Committee (hereinafter "USOPC") and Setagaya City (hereinafter "Setagaya").

1. USOPC and Setagaya were not able to implement exchange programs as planned due to the COVID-19 pandemic. USOPC and Setagaya will continue their partnership strengthened by the Tokyo 2020 Games and implement exchange programs even after 2021.
- 1) Setagaya will support Team USA for the years beyond 2021.
- 2) USOPC and Setagaya will continue to hold sports and cultural exchange programs as a legacy and sign an agreement on the details of exchange programs.

Date: August 24th, 2021

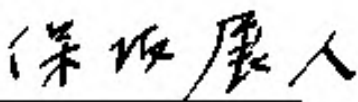
United States Olympic & Paralympic Committee

Signature: 

Name: Rick Adams

Title: Chief of Sport Performance & NGB Services

Setagaya City

Signature: 

Name: Nobuto Hosaka

Title: Mayor

USOPC と世田谷区のパートナーシップに関する覚書（和訳）

2021 年 8 月 24 日に、アメリカオリンピックパラリンピック委員会（以下「USOPC」という。）と世田谷区（以下「世田谷」という。）は以下の通り合意したことを証明する。

世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の影響により、交流事業が予定通りにいかなかった。今後、新型コロナウイルス感染症が収束した後を見据え、USOPC と世田谷は、2021 年以降も東京 2020 大会を通じて強固になったパートナーシップを継続していく。

(1) 世田谷は 2021 年以降も、アメリカ選手団を応援・支援する。

(2) USOPC と世田谷は、2021 年以降も、レガシーとしてスポーツや文化を通じた交流を継続していく。具体的な内容について確認書を取り交わすものとする。

日付：2021 年 8 月 24 日

アメリカオリンピックパラリンピック委員会

署名： _____

名前： Rick Adams

肩書： Chief of Sport Performance & NGB Services

世田谷区

署名： _____

名前： 保坂 展人

肩書： 区長